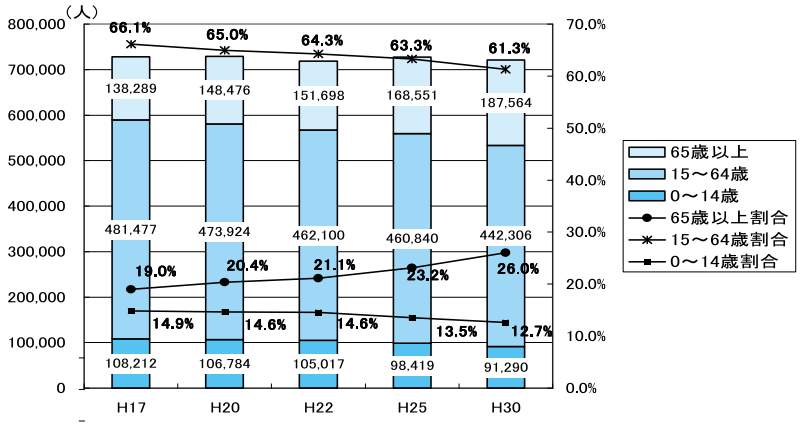
2 市民の健康状況

1　人口動態などの保健統計

（1）人口構成

本市の人口は男性 344,291 人、女性 390,183 人で合わせて 734,474 人です。0 歳～ 14 歳までの年少人口は 105,410 人で、15 歳～ 64 歳までの生産年齢人口は 468,350 人です。65 歳以上の高齢人口は 152,435 人となっています（平成 22 年国勢調査）。年々、年少人口と生産年齢の人口割合は減少傾向にあり、全国と同様に人口の高齢化と人口減少が推測されます。

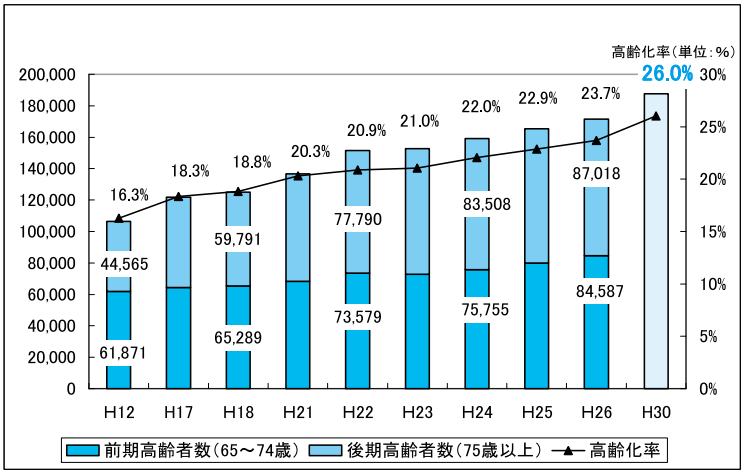
［図１］熊本市将来推計人口の推移



（第６次総合計画将来推計人口より　　H22 については国勢調査の数値を掲載）

平成 23 年 10 月 1 日現在の高齢化率は、21.0%で、国 22.9%、県 25.8%よりも低く、若い世代が多い状況となっていますが、平成 30（2018）年には 26.0%と 5 ポイント上昇すると見込んでいます。

［図２］高齢化率の動向



	高齢化率
国	22.9%
県	25.8%
市	21.0%

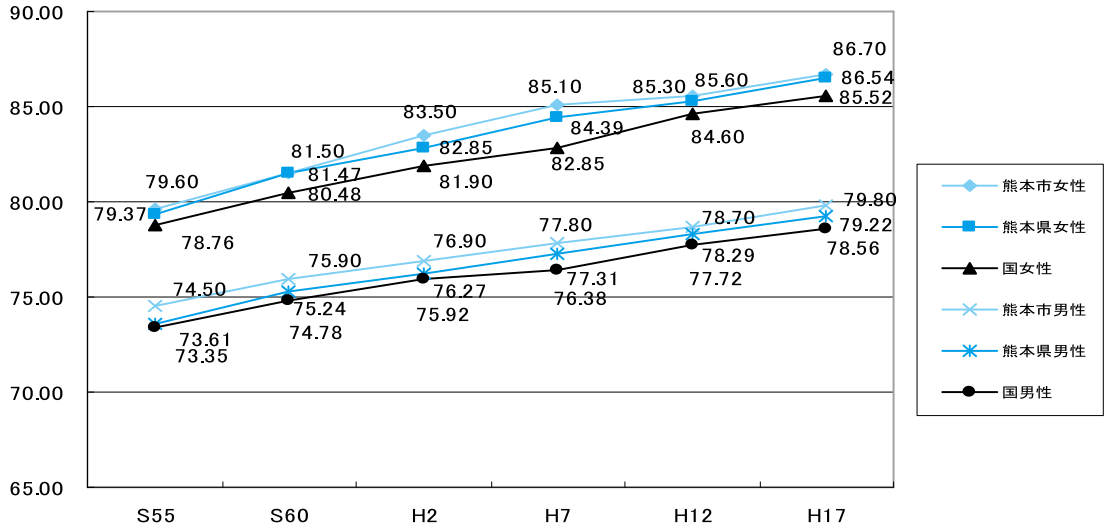
（平成 23 年 10 月1日現在）

（くまもとはつらつプラン（平成 24 ～ 26 年度　熊本市高齢者福祉計画・介護保険事業計画）より
H30 については第６次総合計画将来推計人口より）

（2）平均寿命

本市の平均寿命は、年々伸びており、男女ともに国、熊本県より長くなっています。

［図３］男女別平均寿命

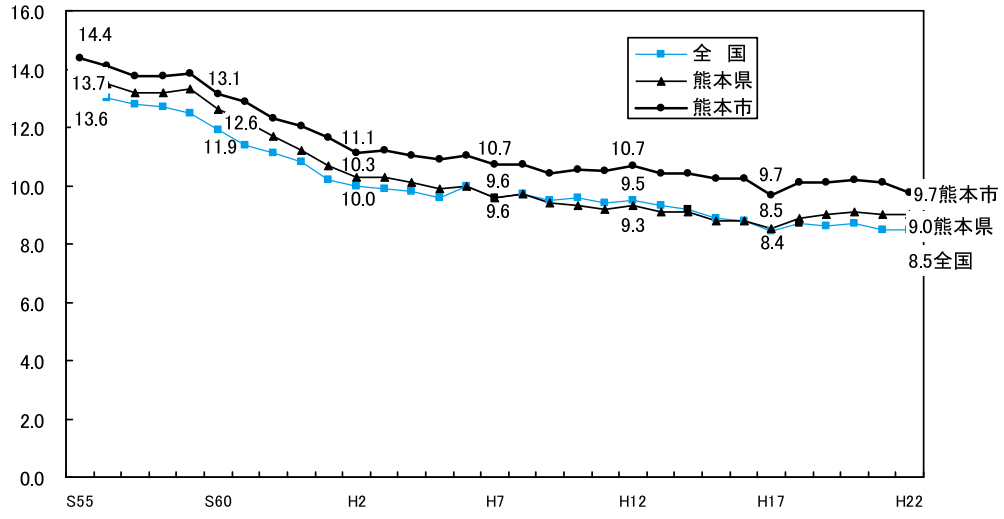


「熊本市の保健福祉　平成 24 年度版」より

（3）出生

平成 22 年の出生数は 7,150 人、出生率（人口千対）9.7%で、前年に比べて 299 人増加し、全国 8.5%、県 9.0%と比較すると高い状況にあります。

［図 4］出生率の推移



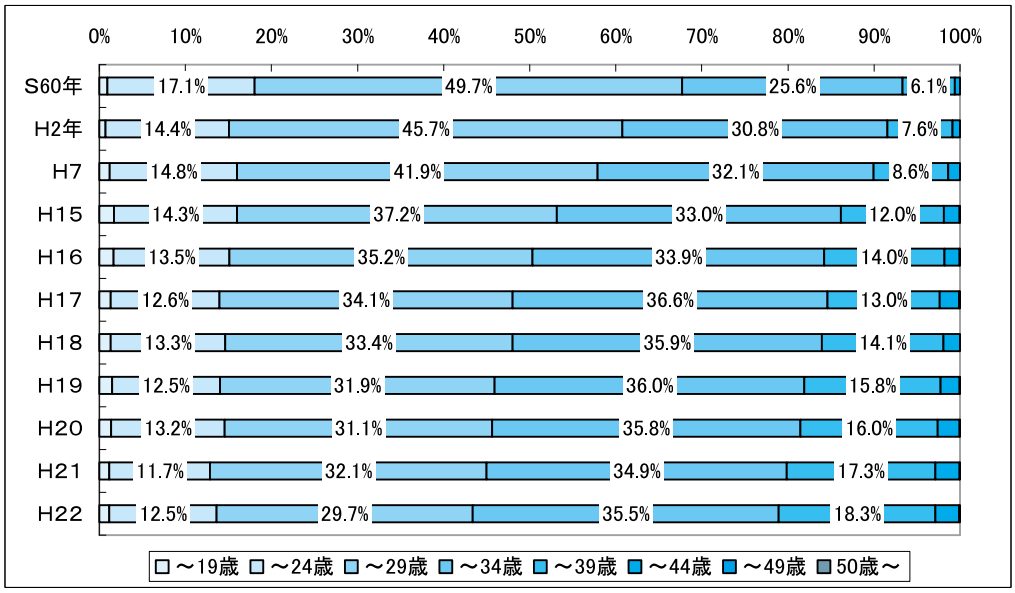
「熊本市の保健福祉　平成 24 年度版」より

母親の出産年齢は年々上昇傾向にあります。昭和 60 年には、20 歳代で出産する母親が全体の 66.8%であったのが、平成 22 年には 42.2%と 24.6%減少しています。

一方、30 歳代に出産する母親は増加傾向にあり、昭和 60 年には 31.7%であったのが、平成 22 年には 53.8%と半数を超えています。

また、40 歳代以降に出産する母親もやや増加しており、昭和 60 年には、0.6%（43 人）であったのが、平成 22 年には 2.9%（204 人）でした。

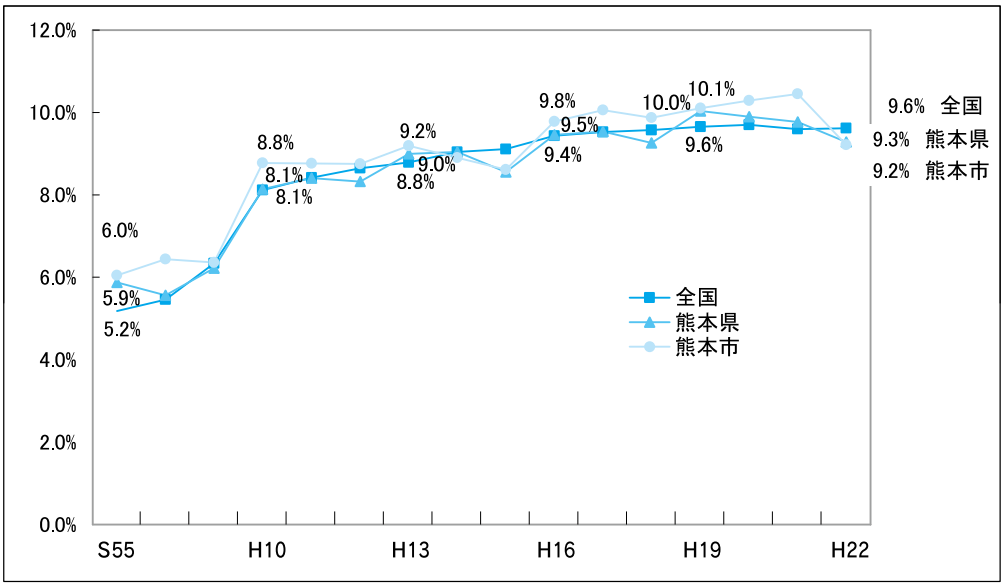
［図５］母親の出産年代別割合の推移



「熊本市の保健福祉　平成 24 年度版」より

出生時の平均体重は、平成 22 年は、男 3,060 ｇ、女 2,960 ｇで、平均体重は 3,011 ｇとなっています。体重別にみると 2,500 ｇ未満の低出生体重児の割合は、昭和 55 年には 6.0%であったのが平成 10 年には 8.8%、平成 22 年には 9.2%となっており、全国の低出生体重児の出生割合 9.6%、県 9.3%と同様な状況です。

［図６］低出生体重児（2,500 ｇ未満）出産割合の推移

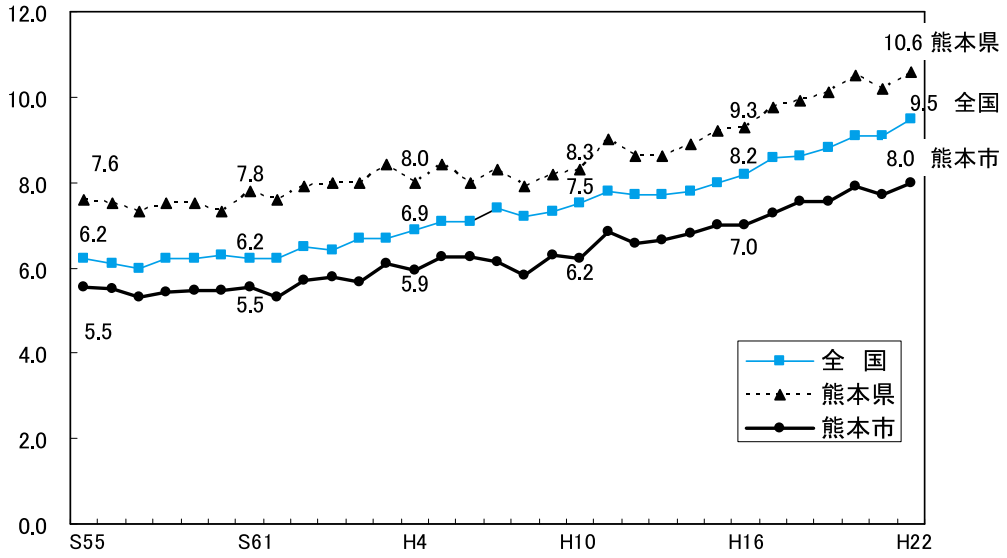


「熊本市の保健福祉　平成 24 年度版」より

（4）死亡

平成 22 年の死亡数は 5,872 人、死亡率（人口千対）8.0%で、前年に比べて死亡数は 638 人増加しました。

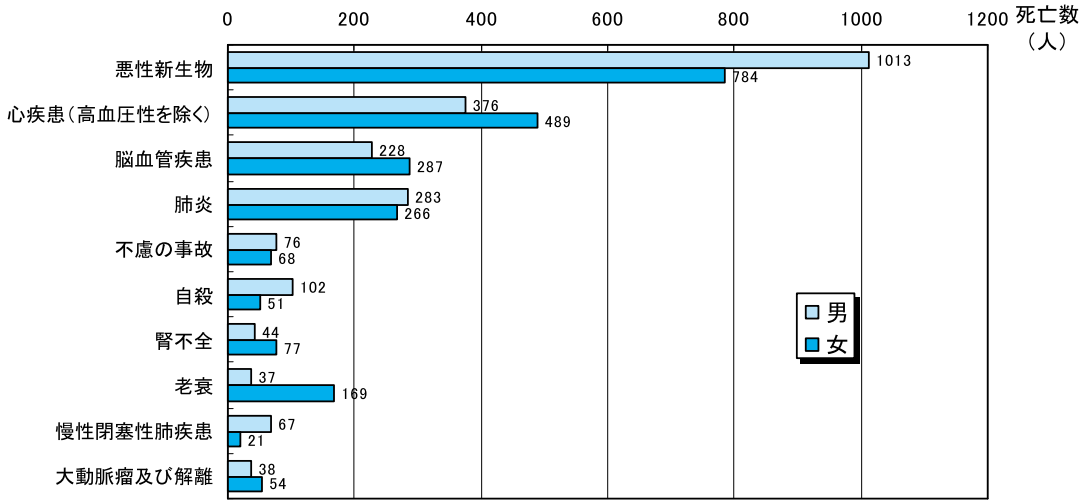
［図７］死亡率の推移（人口千対）



「熊本市の保健福祉　平成 24 年度版」より

主要死因は、男女とも悪性新生物（がん）が第１位となっており、続いて心疾患となっています。

［図８］主要死因別・性別死亡数（平成 22 年）



「熊本市の保健福祉　平成 24 年度版」より

２　健康状態と受療状況

（１）熊本市国民健康保険の特定健康診査[1]受診結果から見る市民の健康

ア　受診率の推移

（ア）年度別受診状況

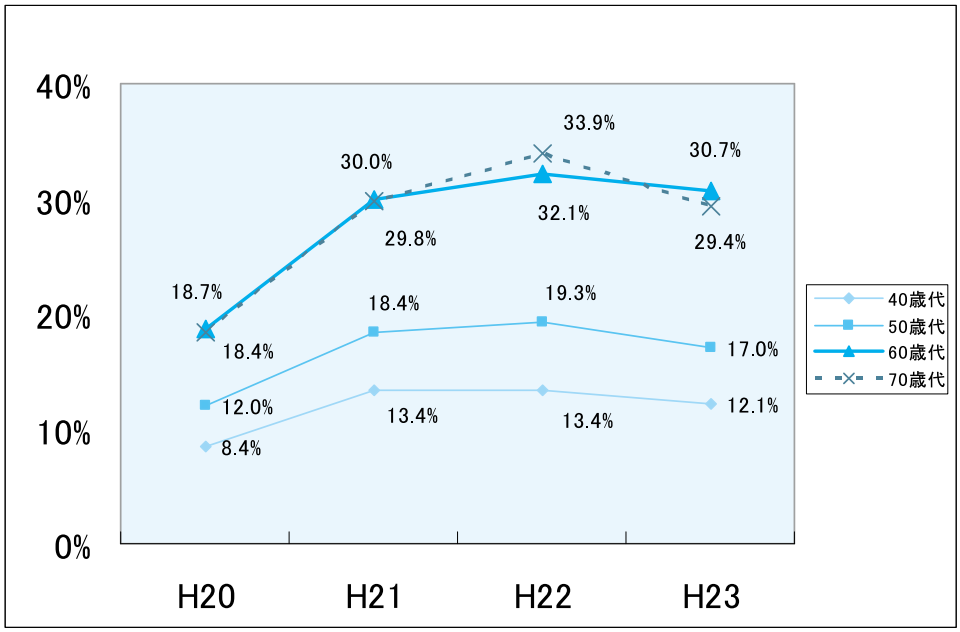
［表１］熊本市国民健康保険特定健康診査の年度別受診状況

年度	H20	H21	H22	H23
受診率	15.6%	25.0%	27.0%	25.8%
受診者	17,209	30,014	32,441	31,022
対象者	110,432	120,165	120,061	120,226

（平成２３年度熊本市国民健康保険特定健康診査法定報告値より）

（イ）年代別受診率の推移

［図９］熊本市国民健康保険の特定健康診査の年度別年代別受診率



※平成 20 ～ 22 年度は、確定受診率を基に集計。平成 23 年度は校区別受診率を基に集計。

イ　健康状況

（ア）特定保健指導対象者

内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム[2]）の人は年々増加傾向にあります。

---

[1] 特定健康診査:厚生労働省が、平成 20 年４月から各医療保険者（国民健康保険、健保組合等）に対し、実施を義務づけた、内臓脂肪型肥満に着目した健康診査。実施の目的は、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)を対象に生活指導を行い、生活習慣病を予防すること。対象は、40 ～ 74 歳の方で、市町村国保や協会けんぽ等、医療保険者ごとに実施している。

[2] メタボリックシンドローム：内臓脂肪が蓄積することによって、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか２つ以上を併せもった状態。糖尿病や高血圧症、高脂血症といった生活習慣病が起こりやすくなる。

［表２］年度別受診者数と特定保健指導対象者数　（熊本市国保）

		H20	H21	H22	H23
特定健康診査受診者数		17,209	30,014	32,441	31,022
特定保健指導対象者数		3,013	4,944	4,956	4,395
	動機付け支援	2,169	3,404	3,434	3,082
	積極的支援	844	1,540	1,522	1,313

（平成２３年度熊本市国民健康保険特定健康診査法定報告値より）

［表３］　年度別メタボリックシンドローム該当率　　（熊本市国保）

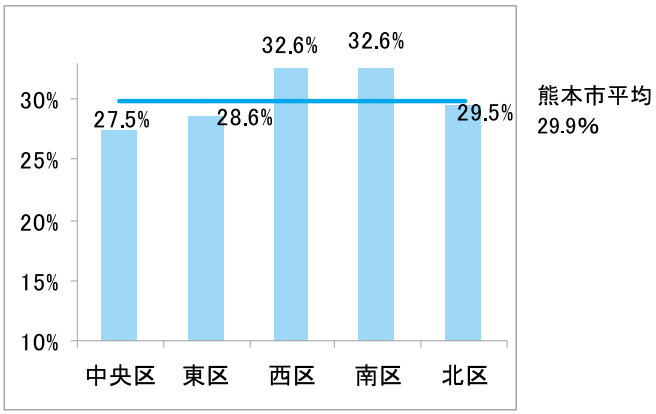
	H20	H21	H22	H23
内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）該当率	14.9%	16.4%	16.5%	16.3%

（平成２３年度熊本市国民健康保険特定健康診査法定報告値より）

（イ）生活習慣病で治療している人

①高血圧

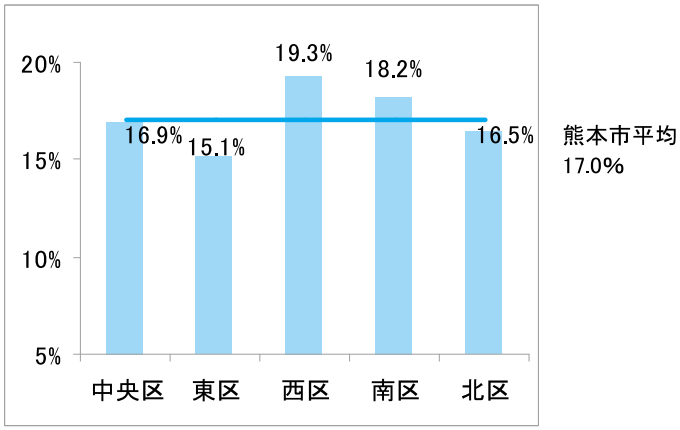
［図 10］高血圧で内服している人の区毎の割合



（平成 23 年度熊本市国民健康保険特定健康診査データより）

②脂質異常

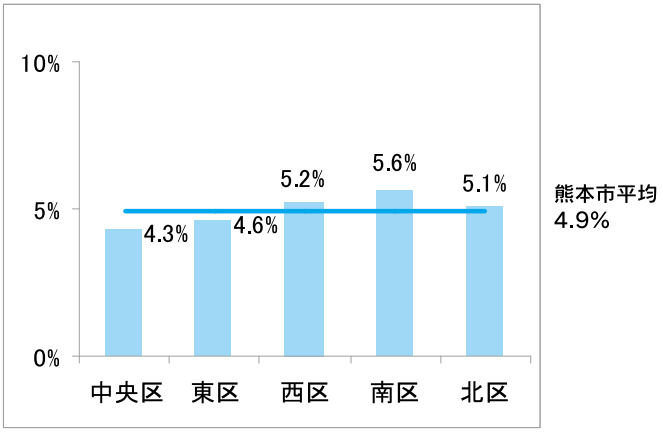
［図 11］コレステロールで内服をしている人の区毎の割合



（平成 23 年度熊本市国民健康保険特定健康診査データより）

③糖尿病

［図 12］糖尿病で治療している人の区毎の割合　（血糖降下薬内服又は、インスリン注射をしている人）

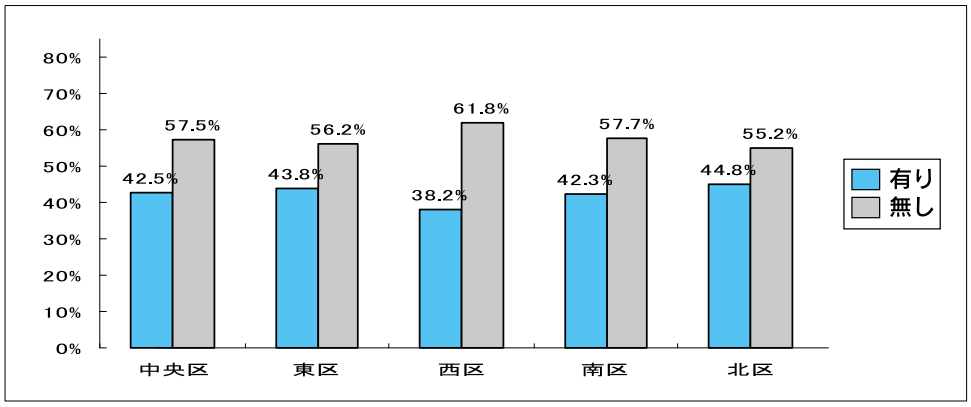


（平成 23 年度熊本市国民健康保険特定健康診査データより）

ウ　生活習慣

（ア）運動習慣

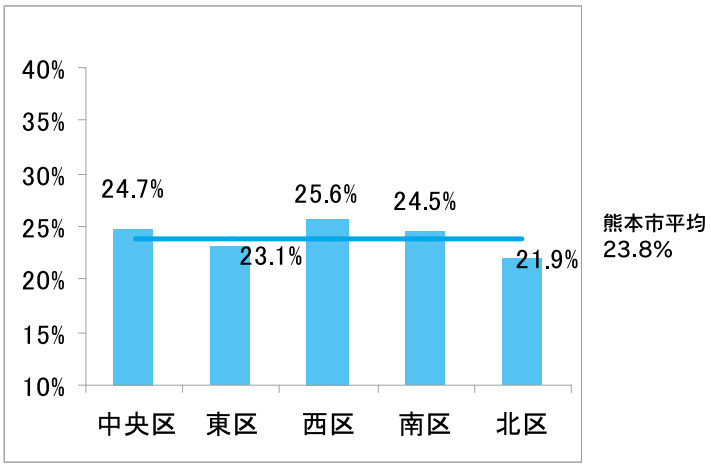
［図 13］運動習慣のある人の区毎の割合



（平成 23 年度熊本市国民健康保険特定健康診査データより）
＊不明者を除き算出したもの

（イ）飲酒習慣

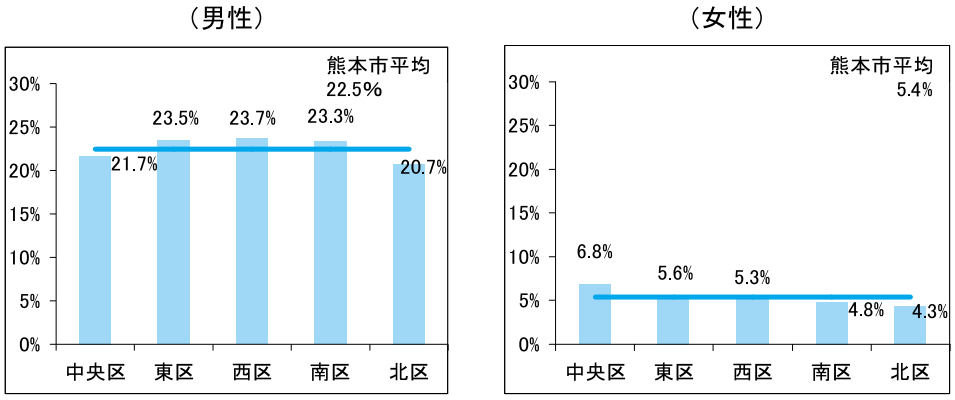
［図 14］毎日飲酒をする人の区毎の割合



（平成 23 年度熊本市国民健康保険特定健康診査データより）

（ウ）喫煙習慣

［図 15］喫煙習慣のある人の区毎の割合

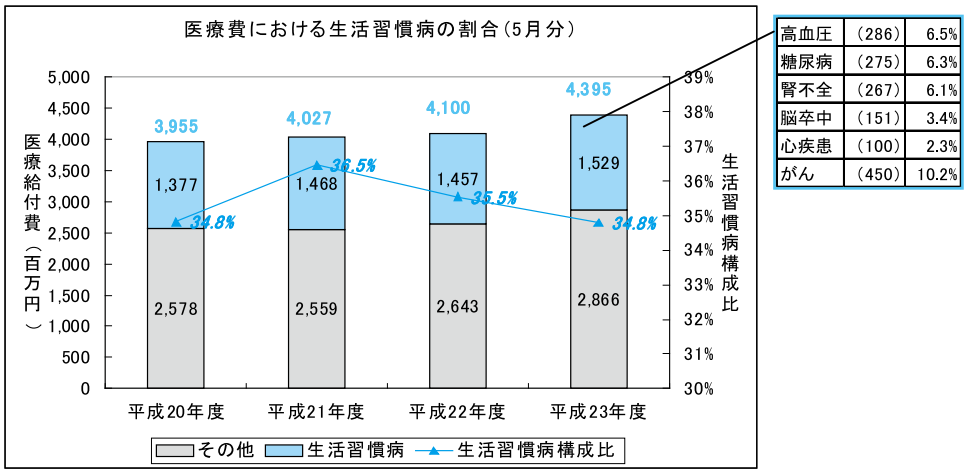


（平成 23 年度熊本市国民健康保険特定健康診査データより）

エ　生活習慣病における医療費

生活習慣病の増加に伴い、国民健康保険の医療費も年々増加傾向にあります。生活習慣病にかかる医療費は３割以上を占めています。

［図 16］国民健康保険における生活習慣病の割合



［表４］医療給付費（年度実績）

（単位：億円）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
医療給付費	443	501	519	531
伸び率（対前年度）	－	13.1%	3.5%	2.4%

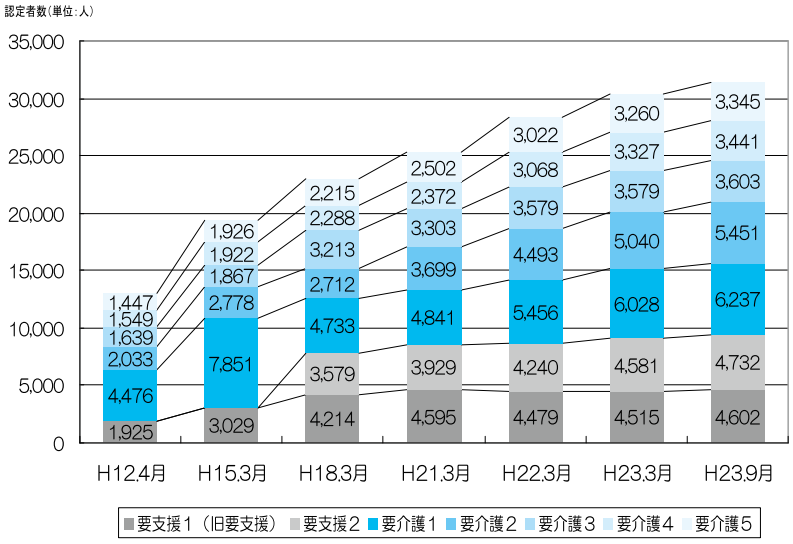
（２）介護保険の要介護認定状況

・65 歳以上の人口（高齢者人口）は、152,843 人（平成 23.10.1）で、平成 12 年から　46,407 人増加しています。総人口の増加に比べ高齢者人口の増加が高くなっており、特に後期高齢者の増加が 35,566 人と顕著になっています。

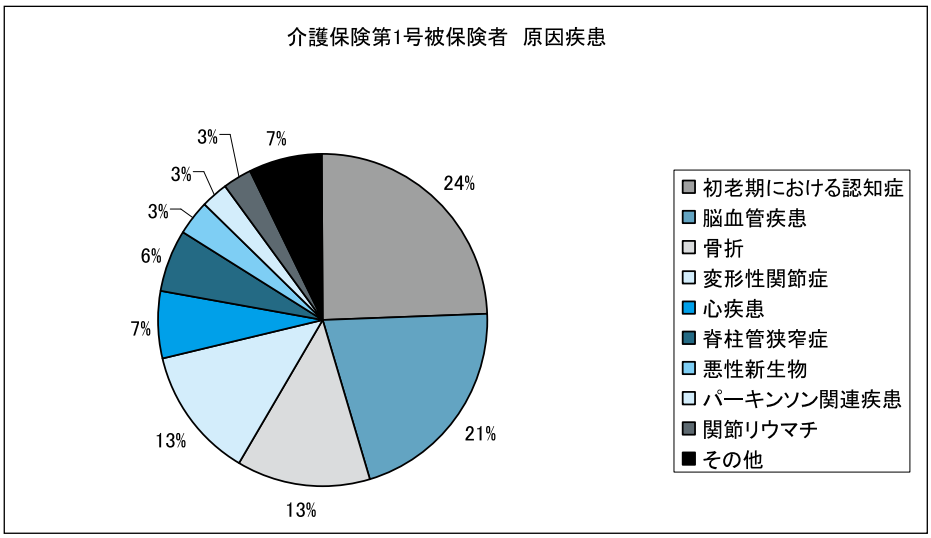
・また、高齢化率は、21.0%（平成 23.10.1）となっており、平成 12 年から 4.8 ポイント増加しています。

・介護保険制度が始まった当初の平成 12 年４月末における要介護（要支援）認定者数は 13,069 人でしたが、平成 23 年９月末には 31,411 人となり、この間 18,342 人の増加（約 240%増）となっています。
・要介護認定者の中での軽度者、つまり、要支援１・要支援２・要介護１は、平成 23 年９月末現在、要支援１・要支援２がそれぞれ 4,602 人、4,732 人で、要介護１は 6,237 人です。要介護認定者の約 50%を占めています。
・また、要介護２・要介護３の中度者が、平成 12 年４月末現在からそれぞれ 3,418 人、1,964 人増加し、5,451 人、3,603 人で、全体の約 29%を占めていますが、平成 12 年４月末時点の構成比とほぼ変わりません。
・要介護４・要介護５の重度者は平成 23 年９月末現在でそれぞれ 3,441 人、3,345 人で全体の約 22%を占め、平成 12 年４月末時点の構成比とほぼ変わりません。

［図 17］介護度別要介護認定者数の推移



［図 18］要介護認定の原因疾患



（平成 23 年度熊本市介護保険データより）